

令和5年産「いちご」販売情報

1. 東京都中央卸売市場取扱実績

(1) いちご類

月	旬	入荷量 (t)	価格 (円/kg)	前年対比 (%)		主産地構成比 (%)
				数量	単価	
10月実績		29	3394	56.0	129.0	栃木 (35.1) 北海道 (33.5) 青森 (8.6) 長野 (7.1)
11月実績		666	2180	84.3	110.4	栃木 (70.4) 茨城 (13.2) 福岡 (7.3) 静岡 (4.5)
12月実績		2371	2281	103.1	98.5	栃木 (46.5) 福岡 (15.1) 茨城 (9.3) 静岡 (8.9)
1月実績		4153	1682	117.0	91.8	栃木 (48.8) 福岡 (12.4) 茨城 (10.5) 静岡 (8.8)
2月実績		4228	1571	92.9	102.5	栃木 (50.9) 茨城 (12.3) 福岡 (12.3) 静岡 (7.9)
3月実績		5687	1368	94.8	110.1	栃木 (46.8) 福岡 (15.5) 茨城 (11.2) 静岡 (9.1)
4月実績		4309	1137	92.6	99.7	栃木 (47.6) 福岡 (14.4) 茨城 (11.2) 静岡 (7.8)
5月実績		2679	1009	113.6	102.8	栃木 (61.6) 茨城 (11.6) 静岡 (7.7) 宮城 (4.7)
6	上旬	215	1095	133.2	103.8	宮城 (36.7) 栃木 (29.2) 茨城 (8.5) 静岡 (6.2)
	中旬	54	1500	93.5	111.4	宮城 (29.3) 秋田 (28.1) 群馬 (12.8) 福島 (5.6)

2. 販売状況

★年内

- 今年産は各産地の生育は例年通りとなり、10月の出荷量は生育前倒しとなった昨年と比べると少なく、価格帯は高値相場で推移した。11月に入るも、引き続き各産地の出荷は多くはないが、高値の影響で末端の荷動きが鈍く厳しい販売となった。
- 12月に入り、いちご全般の入荷が更に増え売場は広がったものの、物価高騰の影響からか末端消費の荷動きは鈍く、量販からの注文は非常に少ない状況となった。
- 中旬に入りクリスマス向け業務中心の売場が変わっていった。今年産は各産地順調な生育となっていたが、12月10日を過ぎた頃に全国的な低温・曇雨天に見舞われ、業務階級の出荷量が一気に減少し相場は高騰しての販売となった。下旬は年末向けの販売に切り替わるも、引続き寒波の影響から各産地の出荷は少なく、高値相場の販売が続いた。

★中盤

- 1月に入り、年末年始の需要も終わったことから、価格帯を落として売り込んだ販売となった。
- 2月に入ると各産地、腋果出始めの影響から全国的に平パック中心の増量で厳しい販売が続いた。中旬に入ると、全国的な降雪・低温の影響により数量が一気に減少し、不足感が続いた。
- 3月、雛祭り需要もあり業務・量販からの引合が強まったの販売となった。しかし中旬に入ると各産地出荷ピークとなり全国的に増量。供給過多となり在庫を抱えながらの厳しい販売となった。
- 4月に入り気温が更に上昇。品質クレームが増えたことで相場は低調での販売となった。

★後半

- 5月、コロナへの対応が緩和したGWの影響もあり、外食・量販どちらの需要も高まり、いちごの荷動きは非常に良かった。連休明けについては例年であれば相場下げての販売となるが、全国的にイチゴの果房が端境・曇雨天低温の影響で数量が減少。相場維持しての販売が続いた。
- 6月、品質クレームが増えて栃木県産の数量が少なくなり、イチゴの売場も縮小となったが、品質の良い産地については出荷最後まで引合が強いまま今シーズンの販売は終了となった。